

第7回高齢者介護研究会  
平成15年5月16日

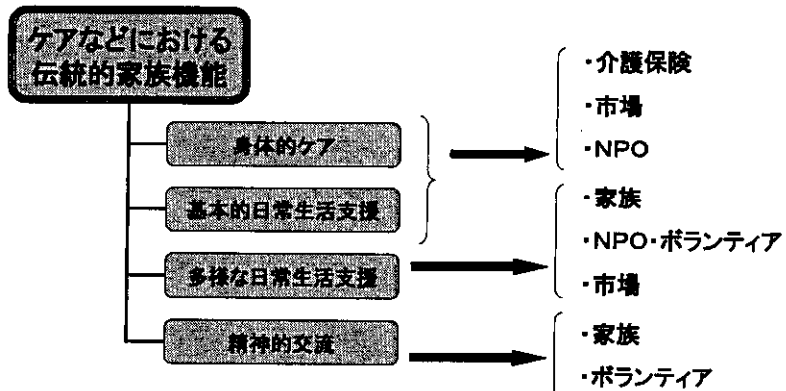
# 地域ケアとNPO・ボランティア

さわやか福祉財団理事長      堀田 力

図1

## 1. NPO・ボランティアの役割

### ○ 家族に代わる役割



多様な日常生活支援

～一人暮らしの在宅要介護者のニーズ～

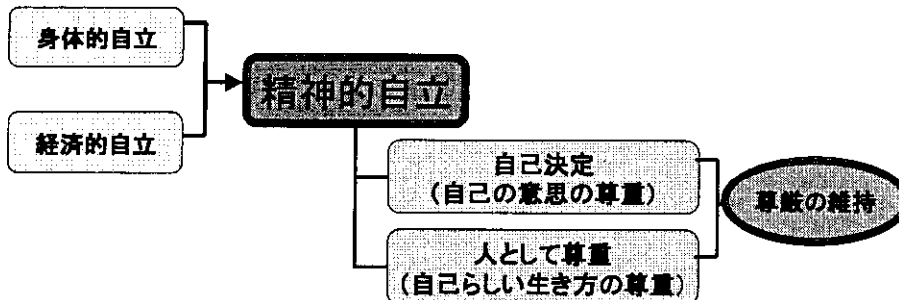
図2

項目	医師 看護師等	介護保険の ヘルパー等	ボランティア又は、 民間業者のヘル パー、時に家族
食事		○	●
排せつ		○	●
清潔保持 (入浴・はみがき・洗濯等)		○	●
着衣・脱衣		○	●
家族との連絡		○	●
医療・看護・保健	◎		
運動			●
外出(医院・買物・墓参り・散歩等)		○	●
住環境維持(清掃・庭の手入れ等)			●
文化・交遊 (会参加・手紙・パソコン操作・TV等)			●
行政等との諸手続き			●

○ サービスの質の向上

図3

将来、質の向上は、精神的自立に移るであろう



日常生活における精神的自立支援の多くは  
家族・ボランティアによる

図4

○ 少子高齢化の進展による財政負担力の限界

・家計の財政支出も削減

・サービス受給における不平等の撤廃

～介護保険料等の負担が難しい層へのサービス

図5

○ 施設と地域をつなぐ役割

例：御調町におけるボランティア

## 2. ボランティア活動の社会的有用性

- 人間的成長  
～子どもだけでなく大人も
- いきがいと健康維持  
～高齢者だけでなく、自分に自信の持てない子どもなども
- 安心と楽しさのある、開かれた地域社会  
～移住への抵抗感や、外国人・新住民差別などの排除の効果も
- サービスの評価と情報伝達  
～情報公開で得られない情報
- 財政的支出の削減
- 参加及び受給を強制しない限り、デメリット無し

## 3. NPO・ボランティアの育成

- 子どものころから、地域社会の中で  
ボランティアを体験することが有効

図8

## 4. サービス提供におけるネットワークの形成

### ○ ネットワークの重要性

利用者の人格は一つでトータルなもの



- ・必要なサービス(フォーマルなものもインフォーマルなものも)が
- ・その利用者の自立支援・尊厳維持の視点に立って
- ・ネットワークを結び、
- ・最適の形で提供されることが必要

### ○ NPO・ボランティアネットワークの形

図9

地域社会におけるNPOボランティア・ネットワークセンター

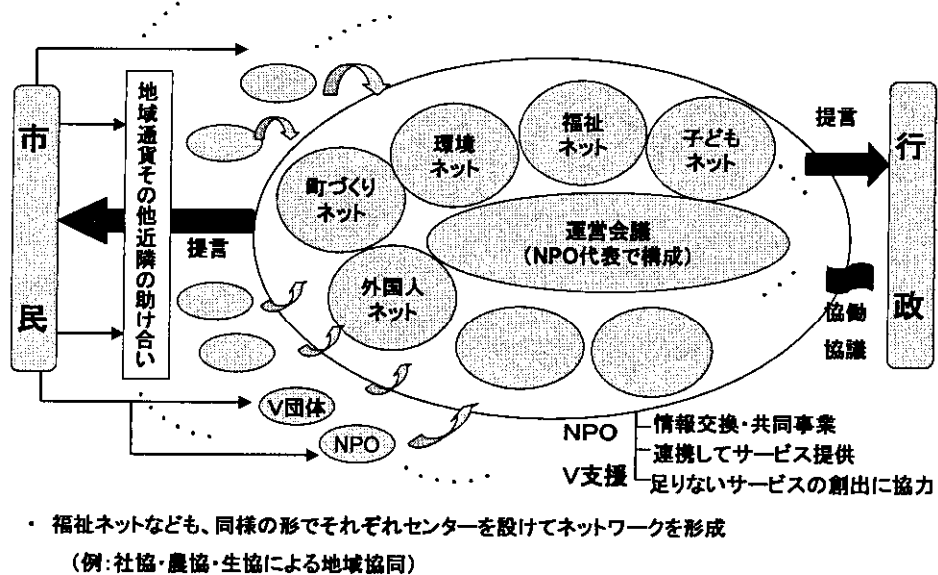


図10

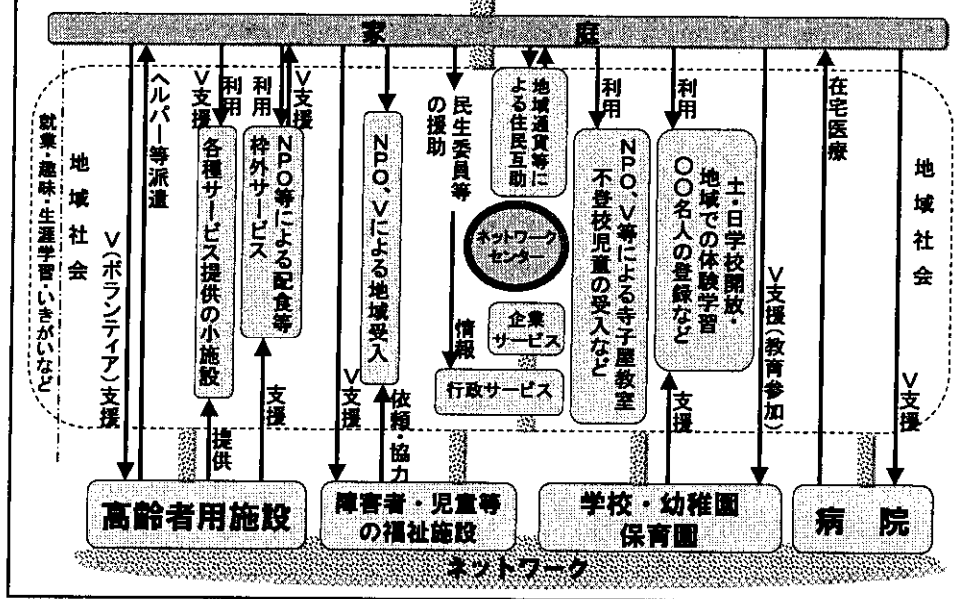
### ○ 医療その他も入ったネットワーク

例:北九州市(若松地区など)

## 5. めざす地域社会の姿

図11

グループホーム ○一つの例



○ **すべての人が、尊厳をもって生きていける  
地域社会をつくるために、不可欠な要件**

1) **住民の参加を得ること**

～財政面を含む計画立案、及びその遂行のいずれについても

2) **医療・保健・福祉だけでなく、教育・環境その  
他のサービスをも総合的にとらえること**

～介護だけを孤立して地域ケアを進めることは不可能